



特集 特色あるふるさと納税

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.51 March.2022

contents

-
- 巻頭随想
- 市町村リレー まちづくり夢づくり
- 苦言提言
- 地域シンクタンク
- 市町村の元気印



machijiman



お問い合わせ先

甲斐市産業振興部農林振興課農林振興係

住所 山梨県甲斐市篠原2610

電話 055-278-1707

メール nourinshinkou@city.kai.yamanashi.jp



シリーズ
ま・ち・自・慢

Kai-City

甲斐市

甲斐敷島梅の里

甲斐市は、山梨県の北西部に位置し、美しい自然が多く残る北部地域、商業施設も農地もあり緑と都市が混在した中部地域、釜無川の雄大な流れを望む南部地域と市内地域ごとに特色があります。

市内をJR中央本線・中央自動車道が横断し、中部横断自動車道も開通し多方面へのアクセスの良さが向上し、「緑と活力あふれる生活快適都市」としてさらに魅力が増しています。

甲斐市の北部地域の玄関口に位置する敷島総合公園周辺は約1,200本の梅の木が咲き誇り、梅の里として県内外から観光客が訪れます。「しだれ梅」、「八重紅梅」など白、ピンク、赤とさまざまな色合いが楽しめます。梅の里の北部には矢木羽湖があり、梅の鮮やかな紅白の彩りが湖面に映る風景を眺めることが出来ます。梅の里から南を眺めれば、甲府盆地の奥に雄大な富士山を拝み、梅の鮮やかな絨毯が広がったかのような景色が見られます。

梅は毎年2月下旬から3月中旬にかけて見頃を迎え、5月中旬には甲州小梅の収穫体験イベントがあります。

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.51 March.2022

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.51 March.2022

- まち自慢 甲斐市
- 02 巻頭随想 「豊かな自然 輝く未来を紡ぐ 水のまち にしかつら」の実現を目指して
西桂町長 山崎 泰洋
- 04 市町村リレー 道志村
- 08 苦言提言 地域子どもたちこそ
富士山アウトドアミュージアム
代表 舟津 宏昭
- 09 特集「特色あるふるさと納税」
- 10 特集1 特色あるふるさと納税
- 14 特集2 富士吉田の文化や暮らし、返礼品と共にまるごとお届けします。
- 18 特集3 自動販売機でふるさと納税
- 20 講演録
- 26 地域シンクタンク
- 28 市町村の元気印
- 30 自治 Q & A
- 33 ヤングケアラーへの支援
- 36 がんばっていま～す。
- 38 はつらつ!!市町村職員
- 40 市町村振興協会たより
- 時の人
- 編集後記



■表紙写真 甲斐駒ヶ岳の麓に続く桜のトンネル

約750mもの桜のトンネルが
続く真原桜並木です。
標高が約700mと高く、例年
4月中旬に見頃を迎えます。
満開時には、甲斐駒ヶ岳など南
アルプスの残雪を眺めながら桜吹
雪の中を散策する観光客でにぎわ
います。
【北杜市提供】

「豊かな自然 輝く未来を紡ぐ 水のまち にしかつら」の 実現を目指して

山崎 泰洋 西桂町長

山崎 泰洋 西桂町長



山崎 泰洋 (西桂町長)

PROFILE
昭和33年 8月17日生まれ(63歳)
昭和56年 3月 千葉大学卒業
平成28年11月 西桂町議会議員就任
令和 2年11月 西桂町長就任

西桂町は、南都留郡の中心に位置し、北東に都留市、南西に富士吉田市と接しています。

山中湖を源流とする桂川、御坂山塊を源流とする杓子流川が町を縦断し、富士山の眺望と南に倉見山、北に単独峰である三ツ峠山を望む所にあります。人口は約4,200人、面積は15平方キロメートル、そのうち約80%が山林です。

私は、令和2年11月に町長に就任し1年が経過しましたが、この間令和3年3月に西桂町第6次総合計画を策定し「豊かな自然 輝く未来を紡ぐ水のまち にしかつら」の将来像に向け、3つの「まちづくりの理念」を定め、施策や事業を展開しています。

まちづくりの理念

「共に考えつくるまちづくり」

西桂町では町民総合調整審議会が設置しており、有識者に加え、公募による町民の参加を願

っています。そのほかにも様々な行政にかかわる協議会、委員会等がありますが、これらの多くの会議を今まで以上に活性化し、議論の輪が広がるように取り組んでいます。また自治区、消防団、ボランティアグループ、文化サークル、スポーツ少年団等との交流を深めることで町について共に考える場を創出しています。町民との対話の中から提案のあった事業については協働事業提案制度として取り上げ、町民と町が一体となって活動し共に「まちづくり」を推進する機運の醸成を図っています。

まちづくりの理念

「次世代につながる誇れるまちづくり」

就任後、公約の最優先課題であった役場庁舎の建て替えに着手しました。築50年経過した現庁舎は、耐震基準を満たしておらず、老朽化が顕著であり、窓口が2階に位置しているながらエレベ



西桂上空からの空撮(初夏)

ター等の設備もない施設です。このことから少子高齢化が進行している中、お年寄りや障害のある方にとって大きなハードルとなっており、「バリアフリー」「ワンストップサービス」など多くの課題を解決する必要があります。この度、国立競技場の設計を担当された隈研吾建築都市設計事務所にて設計をお願いすることになり令和4年度着工に向けて進捗しています。総務省への「市町村役場機能緊急保全事業債」の申請期限が令和2年度末まで4か月と迫る中、建設に向けて全職員が一丸となって取り組んでくれたことに、この場を借りて感謝したいと思います。新庁舎は役場機能に加えて町民のコミュニティスペースとしての「情報ひろば」「交流ラウンジ」「にぎわいひろば」「木漏れ日ひろば」「キッズスペース」「多目的スペース」という多くのエリアを配置し、子どもからお年寄りまで気軽に集える設計、地域活動や文化活動、ボランティアサークル等の発表が出来る設計となっています。次世代にも誇れる庁舎になると期待しています。

西桂町の子育て支援は、「次世代の西桂町を担う人材育成」と捉え、重点的施策としてしています。

「小中学校教諭の町単職員の増員」「学校給食費の無料化」「保育料の



新庁舎の模型

無料化」「高校生までの医療費無償化」「ひとり親世帯支援」「子育て支援室」「学童クラブ」などを重点施策として行っています。町民のボランティア活動として「子育てを支援する会」「スクールガード」等に活躍していただいております。官民一体となって子育てに取り組んでいます。

まちづくりの理念

「活力ある豊かな暮らしづくり」



アーク・クライミングウォール5m

現在「三ツ峠」は、山頂にある岩場がロッククライミングのゲレンデとして、またNHK中継所からの富士山カメラの映像として多くの方が知っている山となっていますが、かつては「霊山」としてたくさん登山者が登頂し町のにぎわいに貢献していました。登山道沿いには、神鈴権現社、空胎上人の墓、梵字の刻まれたダルマ石、八十八大師、岩屋観音をはじめ大小の石造物があり、八十八大師は弘法大師の四国遍路の模倣であると言われています。

かつては林業が盛んでしたが、木材価格の低迷と共に衰退し、山林の管理が課題となってきました。「霊山三ツ峠」の再興と山麓の公園化などの里山整備、スポーツ施設の充実、アウトドア関連産業の誘致などに注力し交流人口の増加に取り

組んでいきたいと思えます。

産業としては「郡内織物」といわれる繊維産業と豊富な湧水を利用したミネラルウォーター産業があります。繊維産業では技術力の高さから多くの著名デザイナーが活用する産地としてアパレル業界内では知名度が高いのですが、OEM産地としての生産が主流であったため、消費者への知名度は全くありませんでした。そのような状況を打破するべく、機屋を継いだ2代目・3代目の職人が郡内織物のブランド化にチャレンジし、近隣の富士吉田市の若手後継者と共に「ハタオリマチ」事業を行っており、確実に知名度の向上に繋がっています。



八十八大師

ミネラルウォーター産業では町内に製造事業者が5社ありますが、現在新たに湧水を利用した完全室内型陸上養殖工場が建設されており、令和5年11月のサーモン出荷を計画しています。新しい特産品として大いに期待しているところです。

町の名所として「穴口湧水地」「燃糸の滝」「桂川溶岩流」「天の滝」「競馬山」などがあります。これらの拠点整備を行うことで住環境の充実を図り、豊かな暮らしの実現を推進してまいります。

市町村リレー

まちづくり 夢づくり

道志村 48

MACHIZUKURI
YUMEZUKURI

道志村の概要

山梨県の東南端に位置し、神奈川県との県境にある本村は、関東に誇る清流道志川の源流域に属し、緑豊かな山々に囲まれた山村です。神奈川県に注ぐ道志川は、明治30年からは横浜市上水

道の水源として利用され、村内には村面積の約3割に及ぶ横浜市の水源涵養林があります。近年は、豊かな自然環境を基盤に都市との交流事業を推進しています。

村内を走る国道413号（道志みち）は、京浜地域から富士山、富士五湖エ

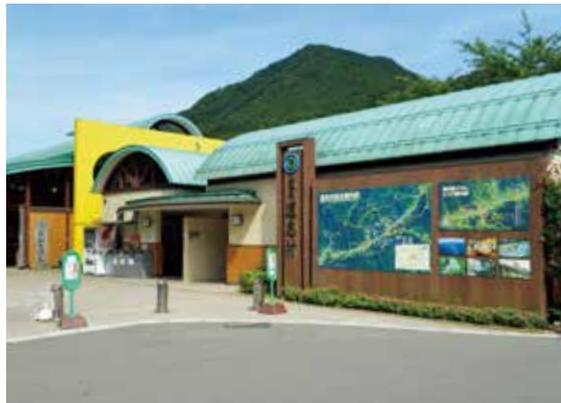
リアへの通り道として観光シーズンには多くの観光客が訪れます。また、令和3年7月に行われた東京2020オリンピック競技大会の自転車競技ロードレースの開催会場にもなり、近年は多くのサイクリストやライダーが道志村を訪れています。

人と自然が輝く水源の郷
住んでみたい村
住んで良かった村



富士山を望む上空から見た道志村

本村の主要な観光施設である「道の駅どうし」は、村を訪れる人に憩いの場を提供するとともに、全国有数の出荷量を誇るクレソンをはじめとする村の特産物の販売や、観光情報をはじめ様々な情報を総合的に紹介する施設として年間約80万人の方が訪れ、賑わっ



ナビゲーションアプリの目的地ランキング「バイク部門」で4年連続全国1位となった道の駅どうし



村内各地にあるキャンプ場

ています。また、日本で最もキャンプ場の多い村とされる本村は、清流道志川沿いを中心に多くのキャンプ場が点在し、豊かな自然環境を満喫できる「キャンプ場の聖地」として高い人気を誇ります。

道志村と横浜市の関係

○横浜市の水源地としての道志村

豊かな森林に育まれた道志川は、かつて世界の船乗りたちに「赤道を超えても腐らない水」と賞賛されたほど、極めて良好な水質です。大正5年、横浜市は水源涵養林として山林を山梨県から約2,800ヘクタールを取得しました。それ以降100年余、横浜市と道志村の両市村で森林の保護・育成や道志川の水質保全に努めてきました。

○横浜市と道志村の友好・交流に関する協定締結

平成16年に横浜市と道志村は「横浜市と道志村の友好・交流に関する協定」と「横浜市民ふるさと村に関する覚書」を交わしました。そして、明治30年以來の水源地としてのつながりから一歩進んで「横浜市民ふるさと村」として合意し、様々な事業を実施しています。

○「飲水思源」記念碑

平成28年、横浜市が道志村の山林を購入し100年の節目を迎え、「道志水源林100年記念式典」が道志村にて

開催されました。そして横浜市から道志村に永久的に変わらぬ友好関係のしるしとして「飲水思源」記念碑が贈呈されました。



書家金澤翔子さんが揮毫した「飲水思源」記念碑

○獅子頭共用栓

横浜市より友好のしるしとして、昭和57年に寄贈されました。現在も道志村役場前においておいしい水を流しつづけており、今では多くの観光客の方に親しまれ道志村のシンボルとなっております。（※令和4年3月現在、役場庁舎建て替えの為一時撤去中）



寄贈された獅子頭

○道志情報館「水カフェどうし」

平成28年9月に「横浜市の水源地道志情報館 水カフェどうし」を横浜市内に開設し、両市村の関係、水源地の自然環境、村の特産品、観光案内など情報提供を行い、多くの横浜市民に村の魅力を発信するとともに、人口増加に向けての移住案内を行っています。

東京2020オリンピック

自転車競技ロードレース

令和3年7月24日(男子)25日(女子)、国道413号線(道志みち)において東京2020オリンピック自転車競技ロードレースが開催されました。



道志みちを走る選手たち

東京2020オリンピック競技大会のコースは、東京都武蔵野の森公園をスタートし神奈川県、山梨県内を通過して静岡県の富士スピードウェイでゴールする総距離約244km(女子約147km)、獲得標高は4,865m(女子2,692m)の世界屈指の難コースとされました。この道志みちは、難易度が高いと称され勾配がきつく世界のトップレーサーの行く手を遮る区間となりました。

大会両日ともに大勢の観客で賑わい、この地は大いに盛り上がりました。

また、開催地に決定したことを契機に、村内事業者等により自転車の整備道具やトイレの無料貸し出し等を行う「道志村サイクルサポートステーション」

ン」を設置し、サイクリストを歓迎する取り組みを始めておりますので、自転車に乗られる方はぜひ、道志村にお越しください。

サテライトオフィス

令和元年10月に、新たな就業場所の確保や産業の活性化を図るとともに、交流人口や移住者の増加につなげるため、「道志村サテライトオフィス」を開設しました。施設は、オフィススペースとコワーキングスペースがあり、情報通信設備環境が整備されています。また、施設前には芝生広場等の自由に



道志村 DOSHI SATELLITE OFFICE サテライトオフィス

使えるスペースがあり、子育てしながら新しい働き方、ライフスタイルを自然豊かな環境の中で創出できる施設となっています。様々な企業にオフィスを構えてもらいたいということで、オフィススペースの使用料は低く設定しております。令和2年9月より利用している企業もあり、コワーキングスペースの利用者も徐々に増えつつあり、本格的に動いております。働き方が多様化する中、自由な働き方を実現していただきたいと思っております。



サテライトオフィス オフィススペース

子育て世帯の
移住支援・子育て支援

道志村では、子育て世帯の移住支援とし、住宅購入補助、住宅家賃補助、村外通勤費助成等といった経済的支援を行うとともに、移住後も移住支援センターのスタッフが村での生活の相談、子育てサークルの紹介、移住者・地域住民との交流会等アフターサービスにもしっかりと取り組んでいます。専門医によるきめ細かい乳幼児健診を行うほか、子育て指導や相談を

行う「どうしつぽみっこくらぶ」を定期的に開催し、お母さんたちが楽しく交流し、健全な育児支援や、つぽみっこ（子ども）の友達作りを行い、村の重要課題となっている少子化に対応した子育て環境の充実を図っています。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため直接集まれない代わりに、LINEを使ったオンラインでの開催や、YouTubeに離乳食の作り方をアップしました。

行政情報提供システム（ライブビジョン）を使った取り組み

道志村では村内全域に光ケーブルを敷設し、芯線の半分ほどを民間事業者に貸し出しブロードバンドサービスを提供するとともに、残りの半分以上を地域イントラ（GEAPON）として運用しています。その地域イントラの用途として、行政情報提供システム（ライブビジョン）を導入し、タブレット端末を住民各戸に設置することにより、住民向けのお知らせや有事の際の情報伝達に役立てております。また、テレビ電話機能を用いて、一人暮



TV電話をかけるにっこりコールオペレーター

らしの高齢者や高齢者のみの世帯、中に独居となる高齢者などを対象に、安否確認や健康状態を把握し、適切に専門の機関へ繋げるサービス「にっこりコール」も実施しております。

学校教育環境・村の資源を 活用した教育

小学校については、過疎化・少子化などにより児童数が減少し、小規模化・さらに複式学級へと移行する傾向にあります。平成11年度に4校を1校に統合しました。統合当時は児童約160人でありましたが、現在53人に減少しています。中学校は昭和49年に統合され、現在の生徒数は36人です。（いずれも令和3年4月1日現在）

平成25年度には、小中学校の校舎に耐震上の課題があったことから、校舎整備検討委員会を設置し、同委員会からの答申として「中学校敷地に地元の木材を利用した小中一体型校舎」として、建て替えることが示されました。その後、中学校の敷地に地元木材を多様に使用した、ぬくもりのある校舎建設が行われ、平成29年4月から小中一体型校舎で、児童・生徒が同じ屋根の下で学校生活をスタートさせました。校舎中央に多目的ホール・図書館・パソコン室を配置し、小中学校で共用スペースとして使用しています。また、



県内唯一の道志小中学校一体型校舎

体育館・グラウンドについても小中学校で共用しています。

小中一体型校舎であること・小規模校であることの特色を生かし、小中学校教職員の連携及び児童・生徒の交流や連携を行い、9年間を見据えた小中連携教育を実践しています。

結びに

今後も道志村では、キャッチフレーズである「人と自然が輝く水源の郷」に住んでみたい村「住んでよかった村」の実現に向け、古き良き伝統文化を守り、新しい感覚を積極的に取り入れ、バランス良く移住・定住施策を進め、様々な施策に取り組んでまいります。

地域の子どもたちにも

富 士山はまるっと全部が博物館―
私が主宰する富士山アウトドア
ミュージアムのコンセプトです。博物
館を名乗っていますが、施設を運営し
ているわけではありません。富士山そ
のものを構成しているすべての自然
環境や生息している野生生物、風土は
もちろんのこと、これらが生み出した
歴史、文化、信仰などのすべてが富士
山としての貴重な博物資料であり将
来世代に大切に引き継いでいくべき
ものであると捉えています。その目的
を達成するために、博物館的な手法
(収集・調査・保存・展示)を主にア
ウトドアでのアクティビティを通じ
て実践していこうと設立しました。特
に富士山麓で育っている子どもたち
と一緒に富士山と向き合っていてき
い思いから、上記の手法が「たくさん
集めて ていねいに調べて 大切に
まもり続けて めいっぱい楽しむ！」
という言葉に置き換わり、数多くの地
域住民、企業、団体のご協力もあり現
在様々な活動を展開しています。

富士山麓の野生動物の交通事故死
(ロードキル)を減らすためのプロ
ジェクト、子どもたちの手で行う森づ
くり、富士山麓の清掃活動など活動は

苦言 提言

Kugen Teigen

舟津 宏昭
Hiroaki Funatsu

富士山アウトドアミュージアム 代表



多岐にわたりますが、特に注力してい

るのが「富士山の森が小学校」という
子どもたちとのプログラムです。対象
は富士山麓に暮らす小学生を中心と
した子どもたちですが、保育園児で
も参加可能ですし、中学生以上もジュ
ニアスタッフ的な立ち位置で参加可
能です。活動内容はただただ富士山麓
を遊び倒す、この一点です。森の中
遊び、洞窟に入り、富士山を含む周辺
の山にも登ります。キャンプでは自分
たちの手でテントを張りますし、富士
五湖では魚も釣るしカヌーにだつて
乗ります。冬はスキーにもチャレンジ
します。2021年度の活動では県内
で初めて一般の子どもたちによる富
士山五合目での国内移入種の植物の
駆除活動も実践することもできまし
た。体力には自信がないと親御さんが
言っていた子どもたちだって、富士山
頂に自分の脚で立っています。「富士
山は見るものだ」という意見を否定す
る気は全くありませんが、自分の脚で
苦労して登頂した後に遠望する富士
山は全く別の山に見えますし、青木ヶ
原の森の中に入れば豊かな森林生態
系を肌で感じるができます。山麓
を汚すポイ捨てごみを拾えば富士山
をきれいにするために自分には何が
できるかを考えます。こうした体験活

動を一年中実践しています。
さて、自然体験プログラムを提供
する県内の多くの優秀なガイドは、観
光客や県外学校団体にクオリティの高
いプログラムを提供する機会の方が多
く、県内の子どもたちとのプログラム
が少ないのが実情で、予算の都合で県
内の学校団体がこうしたガイドを伴わ
ずに教員のみで引率で森の中の体験活
動をしている場面をよく見かけます。

地域で育っている子どもたちには、
豊かな自然のことを自身の体験をもと
に本当に好きになつてもらいたいとい
うのが、私たちも含め自然体験のプロ
グラムを実践している多くの者の願い
です。特に豊かな自然と日本トップ3
の秀峰をもつ山梨県内には、この思い
が強い団体が多く存在します。私たち
のような団体が、県内の子どもたちの
豊かな体験活動のお手伝いをする際
は、ボランティア的なプログラムの提
供ではなく、かつ学校や子どもたちの
負担が少なく済むものにしていかな
くてはいけないと思うのです。観光目
的の来訪者に目を向けた体験活動は産
業ですが、地域の子どもたちのための
体験活動は地域の社会教育です。産業
の担い手が地域の社会教育も躊躇なく
実践しやすくなるような、そんな施策
に期待したいと思えます。

期待したいと思えます。